

日本の放送局 初の受賞 国際賞「ゼロ・プロジェクト・アワード」 「手話が語る福祉」など情報のバリアフリー活動を評価

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）の放送活動「手話が語る福祉」など一連の情報のバリアフリー推進活動が、世界中のバリアをなくす取り組みを行っている団体『ゼロ・プロジェクト』（本部：オーストリア・ウィーン）の国際賞「ゼロ・プロジェクト・アワード2022」を受賞しました。86か国から381のノミネートがあり、8000人を超える専門家の投票により選出されました。日本の放送局としては初の受賞となります。

『ゼロ・プロジェクト』は国連広報省と連携し、国連障害者権利条約の理念に基づきバリアのない世界を目指し活動することを目的に、2008年にオーストリアのエスル財団によって創設されました。プロジェクトの主要な活動として、毎年「ゼロ・プロジェクト会議」をオーストリアの国際連合ウィーン事務局で開催しており、障害者の生活が向上するために世界中で行われている、革新的な実践や政策の発表および表彰を行っています。

「手話が語る福祉」制作チームは1993年の発足当初より“手話は言語”を理念に、聴覚障害者・手話通訳者・テレビ局の3者で「OHK手話放送委員会」を立ち上げ、的確な手話表現を追求しながら28年間で284回の放送を続けてきました。情報番組やインターネット上で手話表現を紹介したり、手話付きのオリジナル曲を制作するなど活動の幅を広げてきました。2020年には放送局で初めて『ユニバーサルデザイン推進功労者表彰』において優秀賞を受賞。今年5月には慶応義塾大学SFC研究所と情報のアクセシビリティに関する共同研究の契約を締結し、学術的な考察も開始しました。

また今年9月23日、国連が定める「手話言語の国際デー」には、ニュースや特別番組での手話放送など、手話への理解や普及を目指す大規模なキャンペーンを実施し、手話放送に協力企業を表示するビジネスモデルの構築と実践にも取り組みました。

今回の受賞はこれら一連の活動が情報のアクセシビリティの観点から、影響力、革新性、再現性、また革新的な実践行動であることを高く評価されたことによるものです。

ゼロ・プロジェクト会議は来年2月23日(水)～25日(金)の3日間、ウィーンの国連事務局とオンラインでのハイブリッド開催の予定で、35か国76の革新的な取組みの発表と、受賞者セレモニーが開催される予定です。

今回の受賞を受けて、OHKはバリアフリーの実践者としての活動に今後も重点を置くとともに、引き続き地域社会における情報弱者の課題を見つけ、OHKが目指す「誰一人情報から取り残されない社会」の実現を目指し、取組みを推進していきます。



【手話が語る福祉】の一場面



手話付きオリジナル曲
【みらいのとちゅう】



【手話言語の国際デー】
夕方ニュース



OHKは、地球規模の社会課題の解決を目指す「SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)」達成に向けた取り組みを推進するため、国連が世界の報道機関に対して協力を呼びかけている「SDGメディア・コンパクト」に加盟しています。

【本件に関する問合せ】

岡山放送株式会社 企業広報担当 福田
TEL 086-941-8881
FAX 086-232-8081